

SANSAMP[®]

PROGRAMMABLE BASS DRIVER DI ELITE

電源仕様

DC 9V センターマイナス 150mA

本製品の日本国内正規輸入品にはアダプターは付属して**おりません**ので、
上記規格条件に見合った電源をご用意下さい。

注意事項

- ・ 本機内部には、お客様ご自身で修理可能な部品はありません。お客様ご自身での分解・修理は行わないでください。分解・修理を行った場合、保証の対象外となる場合があります。
- ・ シリアル番号が欠落している場合、または改ざんされている場合は、保証の対象外となります。
- ・ 保証および修理につきましては、ご購入店または国内販売元までお問い合わせください。

1年間限定保証（ご購入時の証明書が必要です）

- ・ 本製品は、最初のご購入者様に限り、ご購入日より1年間、材質または製造上の不具合がないことを保証します。本保証は譲渡できません。
- ・ 本保証は、事故、不適切な使用、誤使用、改造、不適切な電流または電圧による損傷には適用されません。
- ・ 保証期間内に製品に不具合が生じた場合、Tech 21は無償で修理または交換いたします。保証期間終了後は、有償にて修理を承ります。

ご注意

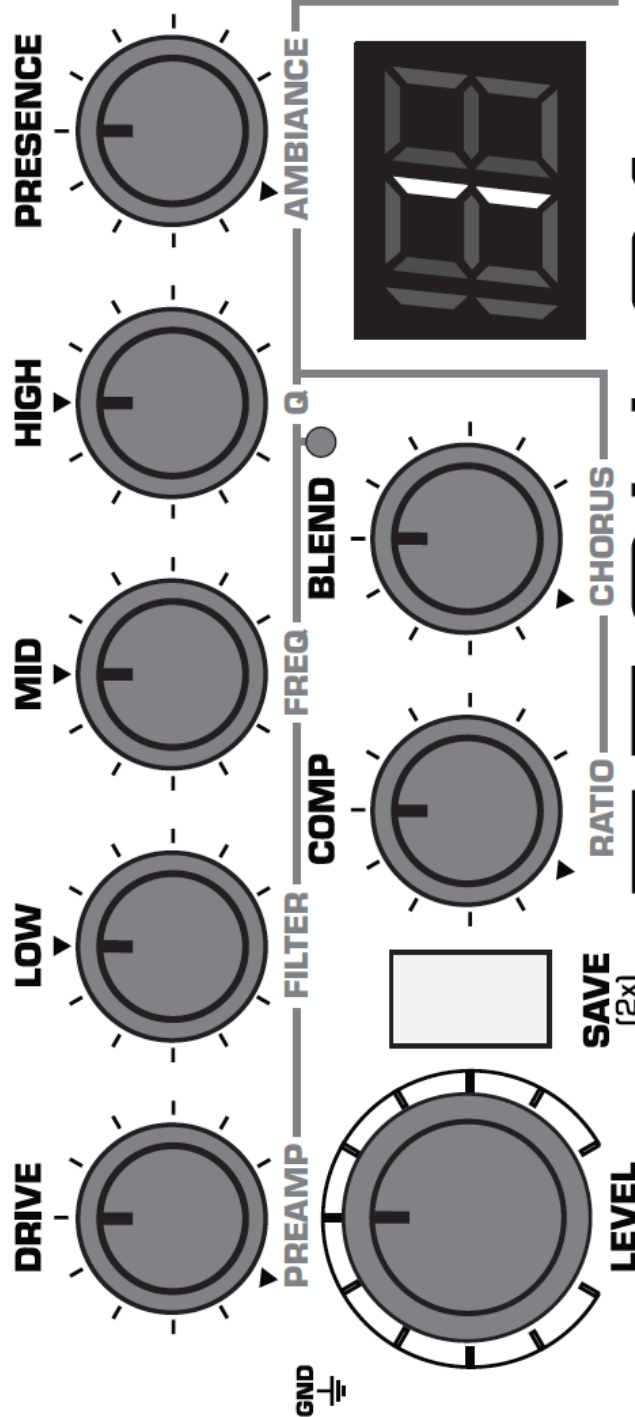
- ・ 製品の改良・仕様変更に伴い、本製品の仕様および外観は、予告なく変更される場合があります。

製造

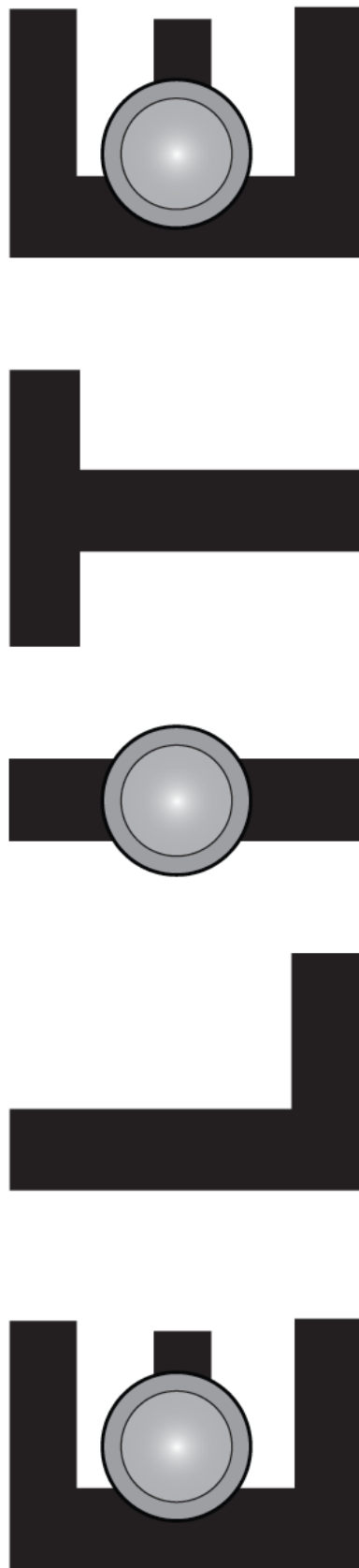
- ・ 本製品は、米国内および世界各国から調達した高品質な部品を使用し、米国にてハンドメイドで製造されています。

SANSAMP[®]

PROGRAMMABLE BASS DRIVER DI ELITE



TECH 21



Tech 21について

Tech 21は、優れた聴覚と電子工学の専門知識という、類まれな組み合わせを持つギタリストによって設立されました。1989年、B. Andrew BartaはTech 21を法人化し、彼独自の発明を世界中のプレイヤーやスタジオに向けて商品化しました。

高く評価されている100%アナログのSansAmpは、レコーディングでのダイレクト録音やライブ演奏におけるチューブアンプ・エミュレーションをプロフェッショナル用途で切り開き、まったく新しいシグナルプロセッシングのカテゴリーを生み出しました。現在ではこの分野に多くの製品が登場していますが、SansAmpは今なお業界標準としての評価を維持しています。

Tech 21の各製品は、プレイヤーのことを念頭に置き、Andrew自身によって丁寧に設計されています。私たちの目標は、プレイヤー一人ひとりのサウンドを育て、コントロールし、磨き上げ、再定義するための、柔軟で多用途なツールを提供することです。Tech 21は、スタジオからスタジオへ、クラブからクラブへ、アリーナからアリーナへ、一貫したプロフェッショナル品質のサウンドを届けることに大きな誇りを持っています。

Tech 21, Cracking the Code

Tech 21の創設者 Andrew Bartaは、長年アナログ技術を信条としてきました。1989年に登場したSansAmpの真空管アンプエミュレーション技術を生み出した Bartaは、これまでデジタル設計に取り組むことはありませんでした。

Bartaは、従来のデジタルモデラーについて、「ダイナミクスやレスポンス、タッチへの追従性が十分ではなく、演奏のニュアンスや表現力が失われてしまう」と考えています。また、音色を変えるためにプレイヤーが機材に合わせるのではなく、機材がプレイヤーの表現に応えるべきだと語っています。

さらに Bartaは、楽器とはベース本体だけではなく、アンプやエフェクトを含めたシグナルチェーン全体であると考えています。デジタルは単なる数値変換にすぎず、使用する楽器固有の個性を十分に保持できないとしています。

オリジナルの SansAmpが真空管アンプのサウンドをコンパクトなペダルに凝縮するという挑戦から生まれたように、Bartaは長年にわたり、アナログと同等のダイナミクス、レスポンス、そして自然な弾き心地をデジタルで実現する方法を追求してきました。

そして長年の研究の末、ついにその課題を克服しました。その成果は Marty Friedman Signature SansAmpの開発とともに形となり、同じ技術はベース向け製品にも採用されています。

SansAmp Programmable Bass Driver DI ELITE概要

初代 SansAmp Bass Driver DIは1994年の発売以来、多くのベースプレイヤーに支持されてきました。オールアナログモデルは現在も販売されていますが、Tech 21は長年にわたり、デジタル版 SansAmpの開発にも取り組んできました。SansAmpのサウンドを受け継ぎながら、シンプルな操作性と実用的な機能を両立したのが SansAmp Programmable Bass Driver DI ELITEです。

本機には Crispy、Crunchy、Dirtyの3種類のプリセットを搭載し、SansAmp PSA 2.0と同様に、以下の2つのモードを備えています。

Performance Mode

- よく使う3つのプリセットをすぐに呼び出せます。

Studio Mode

- 最大128個のユーザープリセットを保存できます。

プリセットの保存・呼び出しは簡単です。ノブで音色を調節し、Save ボタンを押すだけで保存できます。

レコーディングではダイレクト録音やミックス時の音作りに、ライブではプリアンプ、DI ボックス、アウトボード・プロセッサとして幅広く活用できます。

下記URLからダウンロード可能な専用エディターソフトを使用すると、MIDI 経由で以下のパラメーターを編集できます。

<https://www.tech21nyc.com/downloads/>

- わかりやすいグラフィック画面
- 直感的な操作
- MIDI編集：
 - Amplifiers
 - Blendable IRs
 - Effects
 - EQ
- IR機能：
 - SansAmp IR
 - 編集可能なIRライブラリー
 - IRブレンド
 - 外部IRの読み込み

Tech 21のすべての製品と同様に、本機はプレイヤーが理想のサウンドを自由に作り上げられるよう設計されています。

使用例

アンプを使用する場合

・ プリアンプとして使用する場合

SansAmpの1/4インチOUTPUTをアンプのパワーアンプ入力（Effects Return）へ接続してください。これにより、アンプ本体のプリアンプ部をバイパスし、SansAmpのサウンドを活かすことができます。

・ ストンプボックスとして使用する場合

SansAmpの1/4インチOUTPUTをアンプの入力端子へ接続してください。
最適な結果を得るため、SansAmpの Level はユニティゲイン付近に設定してください。レベルを上げすぎるとアンプ入力がオーバーロードし、意図しない歪みが発生する場合があります。

パワーアンプへ接続する場合

1/4インチOUTPUTまたはXLR OUTPUTをパワーアンプの対応する入力へ接続し、SansAmpの Level コントロールでステージ音量を調節してください。

ご注意

アンプのパワーアンプ入力、またはパワーアンプへ1/4インチOUTPUTを接続する場合は、+10dB Output Level SwitchをON（押し込み）にしてください。
その後、必要に応じて Level を調節してください。さらに音量を上げたい場合は、お好みに応じて調節してください。

ミキサーへダイレクト接続する場合（PA、レコーディング、オーディオインターフェース）

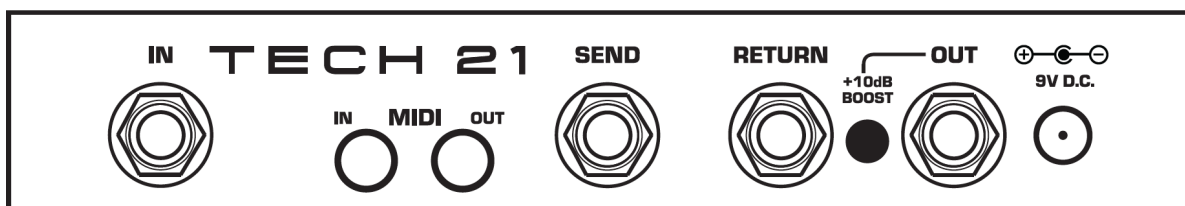
XLR OUTPUTまたは1/4インチOUTPUTをミキサーやレコーダーの入力へ直接接続してください。
ミキサーまたはレコーダーの入力ゲイン（Trim）を調節し、入力がオーバーロードしないようご注意ください。
1/4インチOUTPUTを使用する場合は、+10dB Output Level SwitchをOFF（解除）にしてください。

接続時のご注意

警告：アンプのスピーカー出力を SansAmp に直接接続しないでください。アンプおよび SansAmp が重大な損傷を受けるおそれがあります。

機器の接続・取り外しの際は、スピーカーを損傷する原因となるポップノイズを防ぐため、ケーブルを抜き差しする前に、必ずミキサーをミュートするか、アンプの音量を下げてください。

重要：システムの電源を入れる際は本機を最初に、電源を切る際は本機を最後にしてください。



1/4インチINPUT

入力インピーダンス1MΩ、インストゥルメントレベルの入力端子です。

出力部

SansAmpの出力部は、さまざまなシステムで使用できるよう設計されています。
マルチトラックレコーダー、スタジオモニター、PAシステムなどのフルレンジシステムはもちろん、帯域が限定されたシステムにも対応しています。また、各出力を同時に使用することも可能です。
※ スピーカーキャビネットの周波数特性の違いは、Highコントロールで補正できます。

BALANCED XLR OUTPUT

バランス・ローインピーダンス出力です。ミキサーやレコーダーへ信号を出力します。

GROUND CONNECT SWITCH

ONにすると、XLR コネクタの Pin 1 がグランドに接続されます。
OFFにすると、ステージ機材などのグランドをミキシングコンソールのグランドから切り離し（アイソレートし）、グラウンドループによるノイズを低減できます。

ミキサーのみで使用する場合

楽器をSansAmpに接続し、XLR OUTPUTのみをミキサーへ接続し、他にグラウンドされた機器が接続されていない場合は、GROUND CONNECT SWITCHを有効にしてグラウンドを接続してください。

ミキサーとアンプを併用する場合

XLR OUTPUTをミキサーへ接続し、1/4インチOUTPUTをアンプ（AC アース付き）へ接続する場合は、GROUND CONNECT SWITCHを無効にし、Ground Liftモードで使用してください。
スイッチの設定にかかわらずハムノイズやバズノイズが発生する場合は、使用しているAC コンセントに問題がある可能性があります。

ご注意

適切なグラウンド処理が施されていないビンテージ機器を使用する場合は、アース付きの現行機器との接続に十分ご注意ください。ビンテージ機器側のグラウンドに問題があると、接続した機器を損傷するおそれがあります。

1/4インチ OUTPUT：アンバランス・ローインピーダンス出力です。

1/4インチ Output Level Boost Switch：出力レベルを **+10dB** ブーストします。

※ 1/4インチ OUTPUTと XLR OUTPUTは同時に使用できます。

例：ライブ演奏時に、1/4インチ OUTPUTをアンプへ、XLR OUTPUTを PA ミキサーへ接続できます。

SEND/RETURN EFFECTS LOOP：外部エフェクターを接続する場合は、SENDをエフェクターの入力へ、RETURNをエフェクターの出力へ接続してください。

※ EFFECTS LOOPは常時有効です。

MIDI IN / OUT

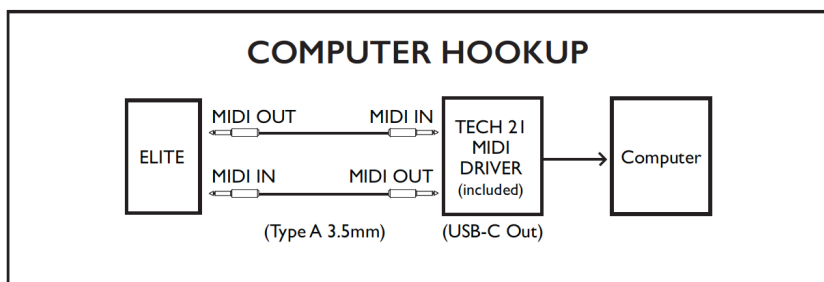
• MIDI IN

PCと通信するための端子です。プログラムチェンジメッセージを受信し、OMNI モードに設定されています。

• MIDI OUT

PCと通信するための端子です。

TECH 21 MIDI DRIVER (Model #MD1)：3.5mm Type A MIDI ケーブル対応の MIDI DRIVERが付属しています。



コンピューターとの接続

1. 本機をStudio Modeに切り替えます。
2. 付属のTECH 21 MIDI DRIVER (MD1) を使用して、本機とコンピューターを接続します。
3. ソフトウェアを起動します。
4. 「MIDI Settings」でInput DeviceおよびOutput Deviceを「USB MIDI DRIVER」に設定します。

コントロール

DRIVE

全体のゲインおよびオーバードライブ量を調節します。真空管アンプをドライブしたようなサウンドが得られます。

LOW / MID / HIGH

アクティブEQです。12時位置を基準（ユニティゲイン）として、各帯域を±12dBブースト／カットできます。

PRESENCE

高域のブレイクアップ感とクランチ感を調節します。

BLEND

ダイレクト音と SansAmp Tube Amplifier Emulation 回路の音量バランスを調節します。通常は最大（SansAmp 100%）での使用をおすすめします。よりナチュラルなサウンドを得たい場合や、ピエゾピックアップ搭載楽器で使用する場合は、ダイレクト音を適度にブレンドすることで、好みのサウンドに調節できます。

BLENDを最小にすると SansAmp Tube Amplifier Emulation 回路はバイパスされますが、LOW、MID、HIGH、LEVEL コントロールは引き続き有効です。

COMP

1950～60年代のオールスクールなFET回路をベースにしたコンプレッサーです。自然で控えめなコンプレッションから、深いコンプレッションと長いサステインまで幅広く調節できます。

LEVEL

出力レベルを調節します。

RED ZONE CONTROLS

Red/Tuner フットスイッチをオンにすると、LED インジケーターが点灯し、各コントロールの機能が以下のように切り替わります。

PREAMP

SansAmpの入力段へ送られる信号レベルを調節します。

クリーンサウンドが必要な場合は、9時方向付近に設定することをおすすめします。

PREAMPを上げると、クリーンブースターを真空管アンプの入力に接続したような効果が得られます。

FILTER

Mu-tron IIIのようなオートワウ／ワウフィルターの動作を調節します。

- 12時位置では効果はバイパスされます。
- 12時位置より上げると、フィルターは上方向へスワイプします。
- 12時位置より下げると、フィルターは下方向へスワイプします。

FREQ

ミッド帯域の中心周波数を 100Hz～1900Hzの範囲で調節します。

Q

ミッド帯域の帯域幅（Q）を 0.5～2.0の範囲で調節します。

AMBIANCE

バランスの取れたレコーディングルームの空間的な響きを付加します。

CHORUS

コーラス効果のかかり具合を調節します。

- 最小：エフェクトはかかりません。
- 12時位置：原音とエフェクト音が **50 : 50**へミックスされ、最も強いコーラス効果が得られます。
- 最大：ビブラート効果になります。

RATIO

コンプレッション比を **1 : 1**～**20 : 1**の範囲で調節します。

ディスプレイとスイッチ

3桁LEDディスプレイ

視認性に優れ、昼夜を問わずさまざまな角度から確認できます。現在選択されているプログラムやノブの設定変更、プログラムの保存状態を表示します。また、チューナー使用時にはチューニング表示としても機能します。

SAVE SWITCH

作成した設定を保存します。

RED/TUNERとリプルファンクション・フットスイッチ（LEDステータスインジケータ搭載）

- Performance Mode
プリセットに応じて、コーラス、フィルター、またはその両方をオンにします。
- Studio Mode
Red Zone コントロールを有効にし、編集およびプログラム設定を行います。
- Performance Mode / Studio Mode 共通
チューナーを起動します。

チャンネル・フットスイッチ

Performance Mode

- 左フットスイッチ：プログラム1
- 中央フットスイッチ：プログラム2
- 右フットスイッチ：プログラム3

Studio Mode

- 左フットスイッチ：前のプログラム
- 中央フットスイッチ：有効／検索
- 右フットスイッチ：次のプログラム

クロマチック・チューナー

RED/TUNER フットスイッチを約0.5秒間長押しすると、クロマチックチューナーが起動します。チューナー起動中は、出力が自動的にミュートされ、チューナー表示部のLEDが点灯します。右側の数字中央の横バーが点灯している場合は、チューニングが合っています。チューニングが合っていない場合は、右側の数字に表示される縦バーでチューニング状態を確認できます。



右上点灯：音程が高めです。
ピッチを下げてください。



中央点灯：チューニングが
合っています。



右下点灯：音程が低めです。
ピッチを上げてください。

チューニングが合うにつれて、右側の表示は上下に移動し、中央に点灯するとチューニング完了です。チューニング後は、以下のいずれかの操作を行ってください。

- TUNER フットスイッチをもう一度押すと、ミュートが解除され、バイパス状態に戻ります。音を確認しながらチューニングを行う場合に便利です。
- 他のフットスイッチを押すと、対応するプログラムへ直接切り替わります。

PERFORMANCE MODE

SansAmp ELITEは、Performance Modeへ起動し、以下の3つのファクトリープリセットがあらかじめ登録されています。

1. SansAmp Bass Driver DI
2. VT Bass DI
3. SansAmp Para Driver DI

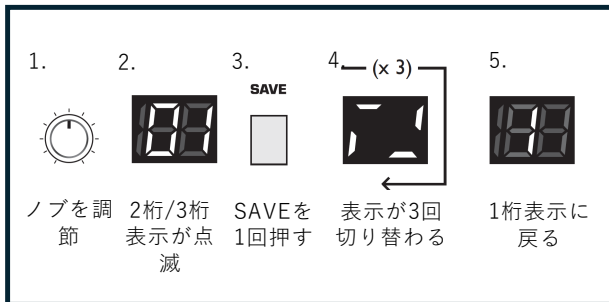
各プリセットは簡単に調節・カスタマイズでき、その場で保存できます。ノブをお好みの位置に調節し、SAVE スイッチを押すだけです。

※ 保存すると、現在のプリセットは新しい設定で上書きされます。

Performance Modeへのプログラム設定・編集

Performance Modeへは、プログラム番号は「1」「2」「3」の1桁へ表示されます。

プログラムの設定または編集中は、保存するまで一時的に2桁または3桁へ表示されます。



※編集中にキャンセルする場合は、数字の点滅中にいずれかのフットスイッチを押してください。

BYPASS

現在選択しているプログラムのフットスイッチをもう一度押すと、SansAmpはバイパス状態になります。

バイパス中は、ディスプレイ中央に「-」が表示されます。

バイパスを解除するには、いずれかのフットスイッチを押してください。



Performance Modeへのプリセット変更

よく使用する3つのプログラムを1・2・3に登録しておくことで、すぐに呼び出すことができます。

プログラムを編集・保存する方法のほか、Move/Copy 機能を使用して、お好みのプリセットをプログラム1・2・3に配置することもできます。

詳しくは10ページ「STUDIO MODEでのプログラム設定・編集」をご参照ください。

STUDIO MODE

Performance Modeと Studio Modeを切り替えるには、フットスイッチ1と3を同時に押してください。

Studio Modeへは、プログラム番号は2桁(01、02...) または3桁(101、102...) へ表示されます。

左右フットスイッチ

左右いずれかのフットスイッチを押すと、プログラム番号が1つずつ切り替わります。

押し続けると、プログラム番号を素早く切り替えることができます。

右フットスイッチ：次のプログラム

左フットスイッチ：前のプログラム

センターフットスイッチ

センターフットスイッチでは、Activeと Searchの2つの機能を切り替えることができます。

Active

LEDディスプレイが点灯します。

左右のフットスイッチを押すと、プログラム番号を1つずつ切り替えることができます。

Search

LEDディスプレイが点滅します。

左右のフットスイッチを押し続けると、プログラムチェンジ情報を送信せずに、目的のプログラム番号まで素早く移動できます。

再度 Active/Search フットスイッチを押すと、Activeに戻り、選択したプログラムへ切り替わります。

※ Studio Modeはレコーディング専用ではありません。ライブ演奏でも使用できます。

RED/TUNER フットスイッチ

コントロールの機能を切り替え、プログラムの設定・編集を行います。

なお、チューナーは Performance Mode、Studio Modeのどちらでも使用できます。

STUDIO MODEへのプログラム設定・編集

※ファクトリープリセットを含む、すべてのプログラムは上書き保存できます。

01～03：SansAmp Bass Driver DI、VT Bass DI、SansAmp Para Driver DI

04～09：Misc

10～19：Crispy

20～29：Crunchy

30～39：Dirty

40～49：Effects

50、100：Bypass

51～128は、カスタム設定の保存や、オリジナルのプリセットを上書きせずにコピーして編集するための領域として使用できます。

既存のプリセットを編集する（ファクトリー／カスタム）

ファクトリープリセットまたはカスタムプリセットを編集する場合は、元のプリセットを残すかどうかをあらかじめ決めてください。

元のプリセットを保持したい場合は、先に次項「プログラムの移動／コピー」の手順で、別のプログラム番号へコピーしてください。元のプリセットを上書きして編集する場合は、以下の手順に従ってください。

1. 編集したいプリセットを選択します。
2. ノブをお好みの位置に調節します。
3. SAVE スイッチを 2回 押します。

ディスプレイ表示が3回切り替わった後、点滅が止まり、プログラム番号が表示されます。これで編集内容の保存は完了です。

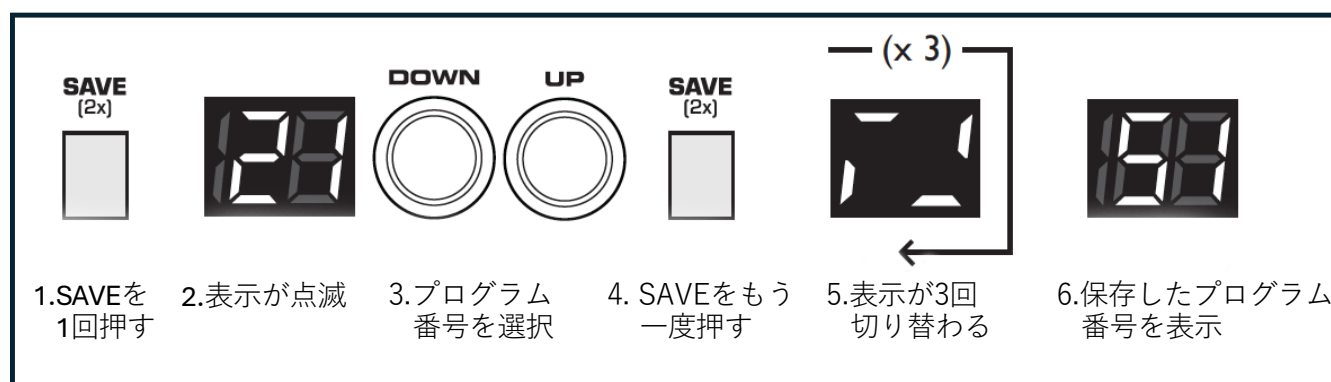
※編集を途中でキャンセルする場合は、数字の点滅中にいずれかのフットスイッチを押してください。

プログラムの移動／コピー

1. 移動またはコピーしたいプリセットを選択します。
2. SAVE スイッチを 1回 押します。ディスプレイの数字が点滅します。
3. 左右のフットスイッチで、保存先のプログラム番号を選択します。
4. SAVE スイッチをもう一度押します。

ディスプレイ表示が3回切り替わった後、点滅が止まり、選択したプログラム番号が表示されます。これで移動またはコピーは完了です。

※元のプリセットは、上書き保存されるまで変更されません。



新しいプログラムを保存する

1. 保存先のプログラム番号を選択します。
2. ノブをお好みの位置に調節します。必要に応じて RED/TUNER フットスイッチのオン／オフも設定してください。
3. SAVE スイッチを 2回 押します。ディスプレイ表示が3回切り替わった後、点滅が止まり、プログラム番号が表示されます。これで新しいプログラムの保存は完了です。

※必要なカスタムプログラムを誤って上書きしないよう、ご注意ください。

プログラムの管理には、12～14ページの空白テンプレートをご活用ください。必要に応じてコピーし、ノブの設定やプログラム名（曲名やサウンドの特徴など）を記録しておく、後から確認しやすくなります。

プリセットに保存されたコントロール値を確認する

プリセットを呼び出した際、各ノブの位置は、保存されている設定値と一致しているとは限りません。

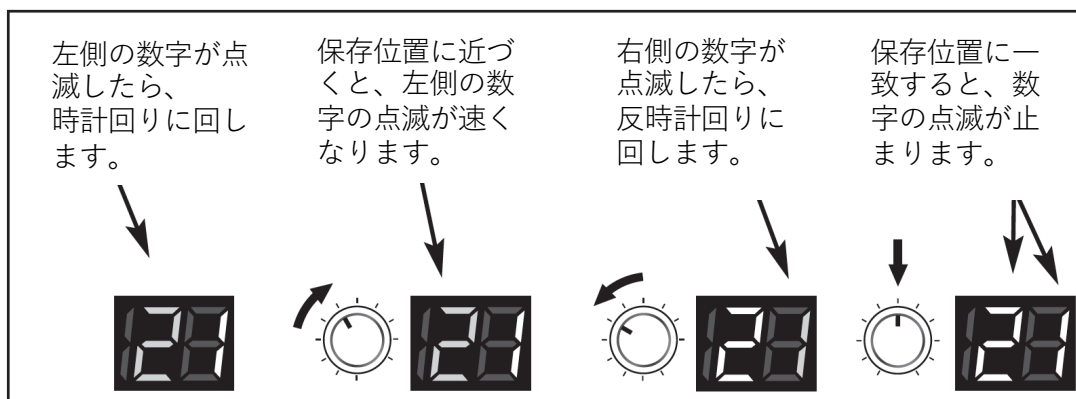
いずれかのノブを回すと、SansAmpは編集モードになり、そのノブの操作が有効になります。保存されている設定値からノブを動かすと、LEDディスプレイの数字の一部が点滅し、保存値との位置関係を確認できます。

※プログラム番号が100以上の場合は、左側2桁が1つの数字として点滅します。



例えば、あるノブの保存位置が12時位置の場合を例に説明します。

- 左側の数字が点滅した場合は、保存されている位置まで時計回りにノブを回してください。
- 保存位置に近づくにつれて点滅は速くなり、保存位置に一致すると点滅が止まります。
- 右側の数字が点滅した場合は、保存されている位置まで反時計回りにノブを回してください。



ご注意

Drive、Presence、Levelなどのコントロールが、保存されている設定値より高い位置にある場合、保存位置に一致した瞬間に音量が大きく変化することがあります。

この現象を防ぐには、「スペシャルページ機能6」を参照し、Safe Level Modeを有効にしてください。

スペシャルページ機能

ELITEには、本体から直接アクセスできる便利な機能が搭載されています。

Performance Mode、Studio Modeのどちらでも、センターフットスイッチを約4秒間長押しすると、スペシャルページ機能を表示できます。左右のフットスイッチで機能を選択し、RED フットスイッチを押すと有効になります。機能が有効になると、対応するLEDが点灯します。スペシャルページ機能を終了するには、センターフットスイッチを押してください。

※コンピューターと接続している場合は、本体操作ではなくソフトウェア側の設定が優先されます。

左右のフットスイッチで機能を選択します。

- P1：MIDI マッピング
- P2：MIDI THRU
- P3：パッチオフセット（1～128／0～127）
- P4：MIDI CC
- P5：MIDI コントロールチャンネル（OMNI／Channel）
- P6：Safe Level Mode（Off／On）
- P7：すべてのノブを無効化（Off／On）
- P8：プリセット保護（Off／On）
- P9：Cabinet Bypass（Off／On）

スペシャルページ機能 1：MIDI マッピング

ELITEは出荷時設定では、受信した MIDI Program Changeを同じ番号のプログラムに割り当てています。

例：

- MIDI Program 01 → Program 01
- MIDI Program 26 → Program 26

付属ソフトウェアを使用すると、この対応を自由に変更できます。

例えば、MIDI フットコントローラーから Program Change 26を受信した際に、Program 15を呼び出すよう設定することも可能です。

設定

- P1 OFF：MIDI マッピング無効（出荷時設定）
- P1 ON：MIDI マッピング有効

スペシャルページ機能 2：MIDI Thru

この機能を有効にすると、MIDI OUT 端子から MIDI Thruを出力します。
マルチポート MIDI インターフェースを使用している場合は OFFのままにしてください。
MIDI 機器をデジタイゼーション接続する場合は ONに設定してください。

- P2 OFF：MIDI Thru 無効（出荷時設定）
- P2 ON：MIDI Thru 有効

スペシャルページ機能 3：パッチオフセット（1～128／0～127）

MIDI プログラムチェンジャーには、0～127を使用する機器と 1～128を使用する機器があります。
この機能では、ELITEのプログラム番号表示を接続する機器に合わせて切り替えることができます。

- P3 OFF：1～128（出荷時設定）
- P3 ON：0～127

スペシャルページ機能 4：MIDI CC

ユーザーインターフェースで設定した MIDI Continuous Controller（CC）を有効にします。

- P4 OFF：MIDI CC 無効（出荷時設定）
- P4 ON：MIDI CC 有効

スペシャルページ機能 5：MIDI コントロールチャンネル

ELITEが受信する MIDI チャンネルを設定します。

OMNI（すべてのチャンネルを受信）または 1～16の任意の MIDI チャンネルを選択できます（ユーザーインターフェースで設定）。

- P5 OFF：OMNI（出荷時設定）
- P5 ON：指定した MIDI チャンネル

スペシャルページ機能 6：Safe Level Mode

プリセット編集時に発生する、意図しないパラメーター値や音量の急激な変化を防ぎます。
コントロールが保存されている設定値より高い位置にある場合は、保存位置まで戻すことで編集可能になります。

コントロールが保存されている設定値より低い位置にある場合は、そのまま編集可能になります。

- P6 OFF：Safe Level Mode 無効（出荷時設定）
- P6 ON：Safe Level Mode 有効

スペシャルページ機能 7：すべてのノブを無効化

すべてのノブ操作を無効にします。

ライブ演奏中に誤って設定を変更してしまうことを防ぐための上級者向け機能です。

プリセットはメモリー内に保持され、MIDIによる呼び出しは可能ですが、このモードではプログラムの編集はできません。

- P7 OFF：すべてのノブ有効（出荷時設定）
- P7 ON：すべてのノブ無効

スペシャルページ機能 8：プリセット書き込み保護

ファクトリープリセットおよびカスタムプリセットの書き込み保護を設定します。

- P8 OFF：保護なし。すべてのプログラムを上書きできます。（出荷時設定）
- P8 ON：すべてのプログラムが保護され、上書きできません。

スペシャルページ機能 9：IR/Cabinet Bypass

※IR/Cabinet Bypassは、XLR 出力および 1/4 インチ出力の両方に適用されます。

- P9 OFF：IR/Cabinet 有効（出荷時設定）
- P9 ON：IR/Cabinet 無効

ご使用上のポイント

1. コントロールについて

Tech 21のコントロールは非常に反応が良く、幅広い音づくりに対応しています。最大限の効果を得るために、必ずしもすべてのノブを最大まで上げる必要はありません。例えば音を明るくしたい場合は、Highを大きく上げる前に Lowを下げてみることをおすすめします。

2. 他の機材との組み合わせ

接続する機材によって最適な設定は異なります。使用する機材や接続方法によって設定が大きく変わる場合がありますが、故障ではありません。まずは Low / Mid / Highを 12時位置に設定し、必要に応じて調節してください。

3. ノイズについて

Tech 21 製品は非常に低ノイズですが、接続機器由来のノイズを増幅する場合があります。ベースの向きを変えたり、ボリュームを下げたりしてノイズの発生源をご確認ください。シングルコイル・ピックアップはノイズの影響を受けやすくなります。

4. デイジーチェーン接続

デイジーチェーン接続では、グラウンドループやノイズ、ハムなどが発生する場合があります。付属の電源アダプター、またはアイソレート出力対応の電源をご使用ください。

5. エフェクトの接続順

SansAmpの前に接続するエフェクト：
Phaser / Vibe / Overdrive / Wah
SansAmpの後段、または Effect Loopに接続するエフェクト：
Delay / EQ / Flanger / Phaser / Pitch Shifter / Reverb

6. Buffered Bypass

Buffered Bypassにより、True Bypassへ発生しやすいポップノイズやクリックノイズ、複数のペダル接続時の高域劣化を抑えます。また、他方式のスイッチング回路で発生する信号劣化も抑えます。

7. フットスイッチ

すべての Tech 21 ペダルには、静かでスムーズな動作を実現する専用フットスイッチを採用しています。

8. ファクトリープリセットについて

ファクトリープリセット名は、サウンドの特徴を表すための名称です。記載されている会社名、製品名、楽曲名、アーティスト名との提携や推奨を意味するものではありません。ファクトリープリセットは予告なく変更される場合があります。最新の取扱説明書およびファームウェアについては、サポートページをご確認ください。

9. ファームウェアアップデート

製品改良のため、ファームウェアは随時更新される場合があります。最新情報はサポートページをご確認ください。

技術情報

1. ファクトリープリセットの初期化

- 保持したいカスタムプリセットがある場合は、あらかじめバックアップを作成してください。
- SansAmp から電源アダプターを取り外します。
- センターフットスイッチを押したまま、電源アダプターを接続します。
- ディスプレイに「dF」が表示されるまで、センターフットスイッチを押し続けてください。
- 「dF」が表示されたら、センターフットスイッチを離します。ディスプレイは一度消灯します。
- 初期化が完了すると、ディスプレイに再度「dF」が表示され、ファクトリーリセットが完了したことを示します。
- リセット完了後は、ディスプレイに「1」が表示されます。これは Performance Modeの Program 1が選択されていることを示します。

2. 起動時の表示

電源を入れると、LEDディスプレイにファームウェアのバージョン番号が一時的に表示されます。ファームウェアの更新については、サポートページをご確認ください。

ファクトリープリセット

ファクトリープリセットは、各サウンドに適した楽器やアクセサリーの使用を前提として作成されています。

<u>SOUND GROUP</u>	<u>PRESET</u>	<u>SOUND</u>
Performance Presets	01	SansAmp Bass Driver DI
	02	VT Bass DI
	03	SansAmp Para Driver DI
Misc styles	04	Lime
	05	SVT-style
	06	Chorus
	07	Compressor
	08	Waka Waka
Crispy styles	09	Brit
	10	'80s
	11	Duran Duran-style
	12	Fat Tube
	13	Slap
	14	Flip Burger
	15	Deep Tube
	16	Active
	17	DI 2
	18	Piezo
Crunchy styles	19	Geezer
	20	Growly Nougat
	21	Trees
	22	'70s
	23	Fly
	24	Beatles Rick Era
	25	Who-style
	26	Blacky
	27	Flip Burger
	28	Squire Sunrise
	29	Tube DI
Dirty styles	30	Brit
	31	Genesis Lam
	32	Shred
	33	Lead Bass
	34	Hysteria
	35	Lemmy
	36	Driver
	37	Dirty Tubes
	38	Fuzz
	39	Fuzz 2
Effects	40	Inductive
	41	Chorus 1
	42	Chorus 2
	43	Echo
	44	Chorusverb
	45	Reverb
	46	Reverb Phase
	47	Reverb Flange
	48	Funk
	49	Reverse Funk
	50	Bypass